

株式会社 ニューロゲン

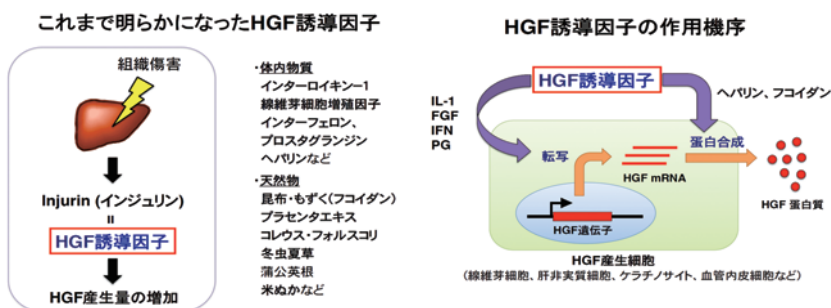
http://www.neurogen.co.jp/

所在地 大阪府茨木市中穂積1-1-52-201 TEL&FAX 072-646-5463 072-646-5463
 代表者 代表取締役社長 中村 敏一 創立年月日 2009年9月7日 資本金 300万円 従業員数 3人

事業内容

HGF(肝細胞増殖因子)は、組織再生や修復に働く内因性のタンパク質であり、認知症をはじめ様々な神経変性疾患の予防および治療に有効である。臓器・組織に傷害が加わると生体内にあるHGF誘導因子が働いてHGFの産生量が高まり、それにより増加したHGFによって組織の再生・修復が進む。株式会社ニューロゲンは、HGF研究に関する多くの基礎データの蓄積があり、各種のHGF産生細胞株や特異抗体等の実験ツール、実験技術を確立している。

HGFの産生に寄与するHGF誘導因子は体内物質だけでなく、食品や薬草など天然物にも存在することが知られており、同社ではこれまでの研究の知見を活かし、天然物に含まれるHGF誘導因子を探索し、難治性疾患の治療薬、発毛剤や歯周病予防などの医薬部外品、アンチエイジング効果(美白、しわ・たるみの改善)をもつ美容品、健康維持のための機能性食品などの研究開発に取り組んでいる。2013年からは彩都バイオイノベーションセンター内にラボを設け、研究開発を加速させている。



知的財産活用事例

現在市販される健康食品や化粧品の中には、有効成分の効果が科学的根拠(エビデンス)が乏しく疑問符がつくものも多々見られる。それに対し株式会社ニューロゲンは、エビデンスのある健康食品・化粧品を世の中に提供することを旨としており、大阪大学でのHGFに関する長年の基礎研究に基づいて商品開発を進め、細胞や動物での実証実験の結果を学会発表や学術論文で積極的に公開している。ただし、学会には競合他社も参加するため、学会発表をきっかけに競合他社が同じコンセプトの商品開発を開始するリスクがある。そこで、自社の技術を守るために発表前に特許出願を済ませ、競合他社の動きを牽制するとともに、他社が製品化する段階で特許権を行使できるように予め対抗策を講じている。特に健康食品・化粧品の分野は類似品が出やすいので、他社に対する参入障壁として特許出願をすることは事業にとって効果的であり、ライセンスビジネスを展開する上でも、また商品の値崩れを防止する上でも重要であると考えている。

知的財産の創出や活用に関する取組

特許は単に出願すればよいのではなく、中身を十分考えて精査するという意識が高い。新たな発明・発見があった場合には、それをどのような特許で抑えれば事業戦略上最も有効かを十分に吟味し、特許明細書を作成する。そのためにも、社長をはじめとした主要メンバーは特許に精通しており、特許明細書の原案は自社で作成する。その上で、弁理士に特許明細書のブラッシュアップを依頼しており、特許へのこだわりは人一倍強いといえる。同社が依頼する弁理士は、社長が大阪大学の教員時代から長い付き合いのある方で、同社の技術や事業を十分に理解しており、同社の信頼が厚い方である。そのような弁理士を一朝一夕に見つけることは容易でないかもしれないが、互いに気心の知れた信頼できる協力者になってもらえれば、的確なアドバイスをタイムリーに受けることができ、特許戦略の立案・遂行上、大きなメリットとなる。

起業を目指す人への知的財産に関するアドバイス

経営者や研究者にとって、特許に対する姿勢が重要である。つまり、特許の扱いを弁理士に任せっぱなしにせず、自社の事業戦略に則した効果的な知的財産を創出するために、場合によっては自らが明細書の原案を書くくらいに積極的に関与し、その上で弁理士と活発なディスカッションをすると良い。